



一生の仕事を見出した人は、他の幸福を探す必要はない、という。その観点からすれば、生きがいを感じるほどの職務につくことのなかった私は、若いころから無意識のうちに、趣味らしきものを探し求めていたといえよう。

初めに興味をもったのは盆栽で、二十代半ばであった。一人でも楽しめる静の世界。大自然の巨木が、両手で持ち運べるほどに凝縮されているにも拘わらず、老大樹の気品と風格を感じさせる美の世界なのである。それは、恰も強風に傾倒し、風雪の厳しさに耐えて生き抜く姿勢であったり、断崖絶壁にしがみついても生きようとしている懸崖樹形や、そよ風に小枝が揺れるような、瀟洒な趣が偲ばれたり、小さな世界に大きな景観を描き出す感動に浸ることができた。

その後友人や知人を通しての婚礼司会を繰り返しているうちに、活舌訓練として浪曲を取り入れてみた。♪旅行行けば…で知られる二代目広沢虎造である。軽妙洒落なその語りを真似ているうちに、即効性はないけれど、時が経つにつれてジワジワと効いてくる、漢方薬のような処方を提供された思いがしたものである。それは司会進行の

我が人生

中村 和 正

話の仕方にも役立ち、若いカップルとの出会いから晴れの舞台まで、緊迫感と充実感の相伴う時間ではあったが、好奇心を満足させることができた。

その勢いに乗って、定年を翌年に迎えた年の初夏に入会したのが、がまの油売り口上研究会であった。習得には通勤の車の中で、自宅では入浴時間を利用して取り組んだ。人生は己との闘い、他には何も無い。充実した人生を送るには、脳も体も鍛え、栄養素のバランスを考え、運動機能を持続させ、心から熱中できる何かを持つことに尽きる、のではないだろうか。現在は、竹垣の中に盆栽用の棚をつくり、長年手塩にかけて育てた盆栽を楽しみながら管理している。また、浪曲はNPO法人・虎造節保存会会員として、不定期ではあるが柴又の山本亭で口演し、がまの油売り口上は、周知の通り各所で楽しんでいただきながら、自身も大いに楽しんでる。最近では、納得のいく人生、いつ果てようと満足である、と思えるような感じがしてきた。明治時代のある浪曲にこんながある。『人生わずか五十年、その半分は夢うつつ、残る半分は孜孜として、人と生まれし天性を心にかけて尽くすべし』と。



新緑の筑波路めぐりハイキング(北条方面)

新緑の筑波路めぐりの第3弾 !!

昨年の竜巻被害から復興に向け立ち上がる北条地区。

商業地であり江戸時代の面影を残す歴史の町、史跡文化財の数々。筑波大生がNPOを立ち上げた矢中御殿も一見の価値あり。ご家族・お友達も誘ってどうぞ。

期 日：平成25年5月25日(土)

集 合：午前9:45

北条商店街駐車場(右の地図P)

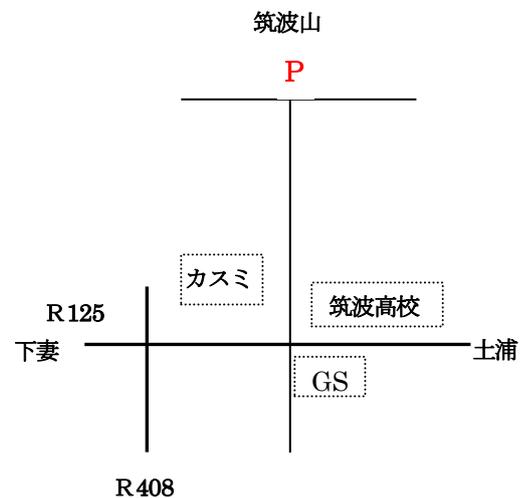
案内人：郷土史家 井坂 敦實 氏

持ち物：弁当、飲み物、タオル、帽子、500円

申込み：5月18日(土)締め切り

練習会支部の代表者または林会長まで

小雨決行・荒天中止



「二〇一〇年の小惑星探査機(はやぶさ)の七年振りの地球帰還は、世界的に高い評価を受け、JAXAの知名度も急上昇した。国際宇宙ステーション(ISS)では、日本は実験棟(きぼう)や物資補給機HTV(こうのとり)などでISS計画に貢献している。

▼「しばむ宇宙への夢」

宇宙開発は巨額な費用がかかるため、費用対効果を重視する政策が出され、「はやぶさ2」などの宇宙探査機の開発は重視されたが、月面ロボットなどの有人飛行計画は縮小された。今後の有人宇宙ミッション計画の衰退が懸念される。

▼「有人宇宙ミッション」

人類の宇宙への挑戦は「地球はどのように作られたのか?」「人類は地球上だけに存在するのか?」という疑問から始まったと言える。人類の知的好奇心が技術を高めた人が宇宙に行くことが可能になった。宇宙に行くためには、有人のロケットや宇宙船などで構成される「有人宇宙輸送システム」が必要になる。重要なのは人が宇宙ミッション(生命科学、物質科学、宇宙医学などの使命、目的)を達成すること。

▼「ISS」

高度約四〇〇キロを秒速八kmで地球を周回している。日米ロなど十五カ国共同で九八年に建設を

開始し十一年に完成。日本は実験棟(きぼう)で生命科学などの実験を行い、無人補給機HTV(こうのとり)は物資補給を担っている。

宇宙開発の現状と未来(夢)
「四六のガマと宇宙旅行」！
成 田 敏 夫

る。

▼「過酷な宇宙環境での宇宙開発の目的と意義」

最先端の有人宇宙技術の獲得。国産宇宙技術力の向上。人材育成。宇宙開発における日本の地位向上。経済社会基盤の拡充などである。

▼「地球上との違い」

「物理的」には、高真空、無重力、極低寒(極高温(十〇〇℃以上)、宇宙放射線など。「心理的」には、閉鎖環境、生命の危険、居住空間が狭い、孤独感、单调感、睡眠障害などである。また、無重量環境では、重さの違うものでも平均的に混ぜられる、モノを空中で加工できる、液体を熱しても対流が発生しないなどの特徴がある。

▼「宇宙開発の未来(夢・ビジョン)」

①地上の約一〇倍の発電量が見込める「宇宙太陽光発電」。課題はコスト。月に重さ一kgの運搬に一億円以上。実現には、JAXAやNASAなど世界の英知と資金を集中させる必要がある。

②「宇宙エレベータ及びホテルの建設」

二〇五〇年完成目標。宇宙の旅が現実となる。建設コストは十兆円。一泊百万円程度になれば、「四六のガマ」との宇宙旅行も実現可能。だが、課題は健康寿命「ガマ様、神様、仏様、夢を下さい!」。

③「火星に八万人移住」

米宇宙ベンチャーの将来構想。課題は今世紀前半の実現を目指している。

▼「つくばから宇宙」

筑波宇宙センターの展示館には、人工衛星やロケット、ISSの実験棟(きぼう)・HTV(こうのとり)など実物大の試験モデルを展示しており、いつでも見学(無料)できますので遠慮なくお越し下さい。お待ちしております。



↑小惑星探査機(はやぶさ)



→ 国際宇宙ステーション(ISS)の全景
・ISSにドッキングした「こうのとり」



↑「四六のガマ」と一緒に宇宙旅行

一月十一日、昼過ぎ、庭先で猫の音がする。その声は、人に例えると酒焼けしたような煙草を吸いすぎたような声、ぎやおぎやおであり、ニャーニャーではないのである。がま蛙のようななつづれた声。おやおや、ふけ猫（我が家の辺りでは発情期の猫のことをいう）かな？と思つた。だから、ふけ猫だつたらすぐにどこかにいくだらう軽く考えていた。

ところが夕方になつてもがま蛙のような声が続いている。どこだ、どこだ。なんと、エアコンの室外機の上に小猫が座つて鳴いていたのだ。鼻がピンク色。泣き疲れてあのような声になつたのだらう。

田津子「お父さん、今、声をかけると情が移るから見ないふりしよう。知らん顔しよう。」
 繁雄「そうだね。聞こえないふりしよう。」

我が家では新たに猫を飼えない事情がある。

それは、昨年の春、二十年一緒に暮らしてきた猫「ゆず」が逝つてしまい、その喪失感がいたるところに残っているからだ。また、十六歳になるのに気性の荒い「きよ・おばちゃん猫」もいる。実家、鹿児島に行くために長期に私が留守をする等の理由だ。

それなのに、主人は子猫を家の中に入れてしまった。子猫を赤ちゃんのように抱き「いい子だね、寒くなかった？どこからきたの？」子猫のなき声に負けたのは主人である。

きよ・おばちゃん猫からかばうため、2日間は主人の彫刻部屋に隔離。子猫は、食事、トイレに

子猫がきた

富山 田津子

起きるだけで寝てばつかしであった。その間にケージや子猫用キャットフードを用意したり、「きよ・おばちゃん」を宥めたり私の生活も急に忙しくなつた。

子猫の名前は「ちーゆず」に決まつた。ちーゆずが我が家の一員になつて、まもなく、ひと月、「きよ・おばちゃん」に威嚇されても平気になつた。二匹の距離が心配だったがそれも解消しつつある。植木鉢をひっくり返したり、襖をひっかいたりいろんなことをやらかしてくれけるけれど、我が家に来てくれたことに感謝する毎日です。ありがとう、ちーゆず。



ちーゆず



きよ (16 歳)

ちよこい息

第一生命が毎年行っているサラリーマン川柳100選の中には時代を切り取つた「うまい！」と感心する作品が並ぶ。ちなみに今年の一選に選ばれたのが次の作品。



宝くじ 「当たれば辞める」が合言葉

そして、知名度は少し落ちるが亀の甲よしの…なかなか味わい深いのが、全国有料老人ホームが募集しているシルバー川柳。何点か紹介してみよう。

かじられた スネで支える 身の重み

来てやった もらってやった で五十年

いの動悸 昔は恋で いま病 (やまこ)

土浦市で一番高い山「宝篋山」

佐藤 貞弘

昨年の筑波路めぐりハイキングでは、郷土歴史
研究家井坂敦實先生のご案内で、新緑のつくば市
小田を歩き「歴史のふる里・小田」を満喫しまし
たが、散策中ふと見上げるとどこからでも見えて
いた山、山麓に数々の歴史遺産を抱く山「宝篋山
(通称：小田山)」については前回紹介ができてま
さんでしたので、山名に係る考察を加えて紹介しま
す。

つくばから小町の館へ向かう道すがら、金田を
過ぎて桜川(栄利橋)を渡ると、北方の田園風景
の向こう左手に筑波山、その手前に土浦市内のな
だらかな山並み
が右手方向に連
なります。土浦
市の最高峰「宝
篋山」はこの山
並みの左手、筑
波山の手前に位
置します。ここ
からの眺めがい
いですね。

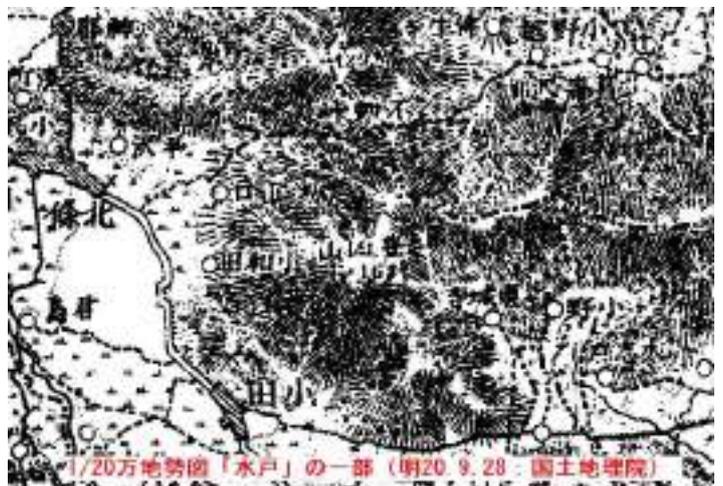
宝篋山は、土
浦市(東城寺地
内)とつくば市
(小田地内)と
の行政界にある



標高四六一メートルの山で、山頂に
は高さ二メートルの鎌倉時代に作ら
れた「宝篋印塔」と大きな電波塔が
あります。また山頂からの眺めは素
晴らしく東南に霞ヶ浦、その向こう
には太平洋(鹿島灘)を望むことができます。南
西には関東平野が一望でき東京スカイツリーや遠
くに富士山が、北西には筑波山、遠くに榛名山・
赤城山・日光連山と大パノラマを楽しむことがで
きます。ハイキングコースは六本もありますので、
それらを組み合わせた周回コースで楽しむことが
できます。コースにより登り約一時間五十分から
二時間三十分かかります。

さて、多くの人々に親しまれている宝篋山です
が、国の基本図(二万五千分一地形図)に山名の
表示がありません。何故でしょうか。それは次に
示すように幾つもの呼ばれ方をしてきたので、基
本図作成の照会時に決めきれなかったためではな
いでしょうか。

これまで「鎌倉時代初期に存在した三村山の極
楽寺・宝篋印塔が建てられて以降は宝篋塔の峯・
三角点の点名は小田山で住所は小田字向山(俗称
浅間山林)・吉凶を占った山として豊凶山(明治の
頃)・昭和から平成にかけて宝鏡山・宝篋山・宝篋
山」と九つにもなります。しかし、平成二十三年
以降は「宝篋山(通称：小田山)」に統一されてい
るようで他の呼び方を見ませんので、是非この山
名を国の基本図に表示したいものです。自然地名
なので両市からの申請が必要になりますが、基本
図に表示されると教科書にも民間の地図にもその
まま表示されますので、広くそして時代を越えて
使われます。早くそうなりたいですね。



編集後記

春は名のみの：♪といつまでも続く寒さを
嘆いたのもつい先日、急激な温かさに一気に目
覚めた桜たち。急かされたのは花だけではあり
ません。今回は原稿日照りでかわら版の完成が
大幅に遅れてしまいました。それでも会員の皆
様のご協力で、こうして無事お届けすること
ができました。これから、花をめぐることにいた
しましょう。
身の回りの小さな出来事などお届けいた
できれば幸いです。

編集子